

# 第2四半期決算説明資料 (2015年度)

2015年11月30日



# 2015年度 第2四半期 決算概要

## 2015年度 第2四半期累計期間の総括

- 当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策の効果を背景に、企業収益の回復や雇用・所得環境の改善が続き、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、中国をはじめとした新興国経済の減速懸念や米国の政策金利引上動向による影響など、景気の先行きは依然として不透明感を残しております。
- このような事業環境の中、主要顧客である製造業の業績改善に加え、原子力発電所向け呼吸用保護具の受注も一定水準以上を維持したこと等もあり、呼吸用保護具全般の受注は、前第2四半期累計期間を上回る水準で堅調に推移しました。この結果、売上高は、前第2四半期累計期間比12.9%増の44億80百万円となりました。
- 一方、利益面では、材料費・諸経費増が避けられなかったものの、効率的な生産体制を維持したことに加え、製品売上高の増加もあり、製品原価率は前第2四半期累計期間比で7ポイント以上の改善となりました。この結果、売上総利益は前第2四半期累計期間比33.4%増の16億43百万円となりました。
- また、販売費及び一般管理費については、売上高の大幅増加にもかかわらず、ほぼ前第2四半期累計期間の水準を維持しました。また、製品自主回収関連費用として、特別損失96百万円を計上しました。
- 以上の結果、営業利益は2億61百万円（前第2四半期累計期間は営業損失1億40百万円）、経常利益は2億49百万円（前第2四半期累計期間は経常損失1億52百万円）、四半期純利益は1億2百万円（前第2四半期累計期間は四半期純損失95百万円）となりました。

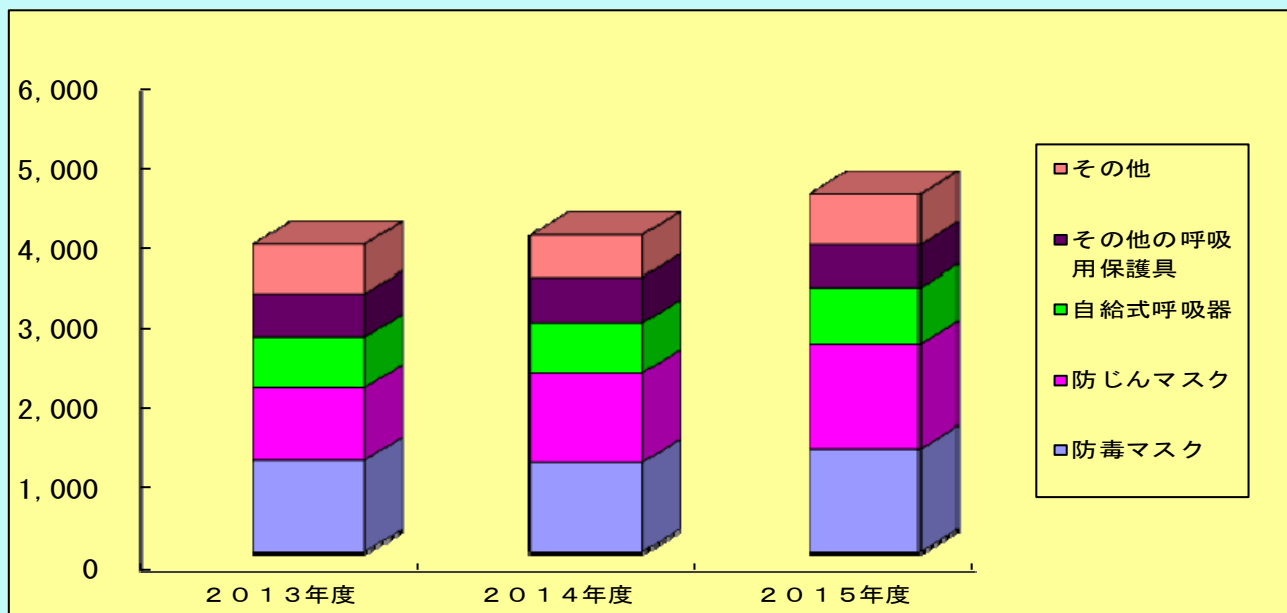
## 2015年度第2四半期累計期間 損益の状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	14年度第2四半期	15年度第2四半期	前年同期間比増減	備 考
売上高	3,967.1	4,480.3	513.2	主要顧客である製造業の業績改善による受注増に加え、原子力発電所向け受注も堅調だったことから、売上高は5億13百万円の増収となりました。
製品製造原価	1,951.9	1,938.8	△ 13.1	前年同期間との比較では、売上高の増加による影響もあり、製品製造原価率は7.6ポイント改善し、商品原価率も前年同期間並みを維持したことから、売上総利益は4億11百万円増加し、売上高総利益率は5.6ポイント改善しました。
商品原価	783.4	898.5	115.1	
売上原価	2,735.3	2,837.4	102.1	
売上総利益	1,231.8	1,642.9	411.1	
販売費及び一般管理費	1,371.8	1,382.1	10.3	売上総利益の増加に加え、販売費及び一般管理費が前年同期間並みであったことから、営業利益は2億61百万円と前年同期間比で大幅に改善しました。
営業利益	△ 140.0	260.8	400.8	営業外収益・費用ともに、前年同期間とほぼ同額であったことから、営業利益の大幅改善を受け、経常利益も前年同期間比で大幅に改善しました。
営業外収益	18.9	21.5	2.5	
営業外費用	30.6	33.4	2.7	
経常利益	△ 151.8	248.9	400.6	96百万円の特別損失の計上はありましたが、税引前四半期純利益も大幅に改善しました。
特別損失	5.7	96.3	△ 90.6	
税引前四半期純利益	△ 157.5	152.6	310.0	以上の結果、四半期純利益も前年同期間比で大幅な改善となり、第2四半期としては2011年度以来の好決算となりました。
法人税、住民税及び事業税	2.9	12.7	9.8	
法人税等調整額	△ 65.6	38.2	103.8	
四半期純利益	△ 94.8	101.7	196.5	

## 第2四半期累計期間のセグメント別売上高推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

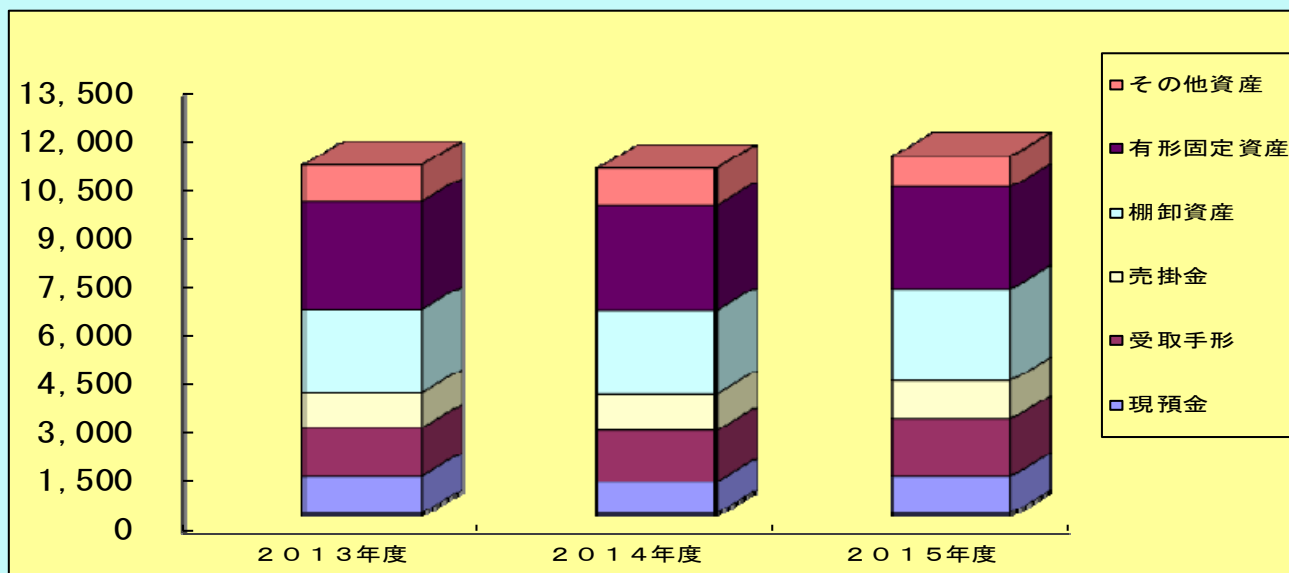
	2013年度	2014年度	2015年度
防毒マスク	1,161.9	1,133.5	1,298.0
防じんマスク	894.8	1,108.0	1,306.9
自給式呼吸器	634.3	628.9	708.1
その他の呼吸用保護具	541.0	568.6	530.3
その他	615.4	528.0	636.9
合計	3,847.5	3,967.1	4,480.3

### 当第2四半期累計期間の特徴

- ① 当第2四半期累計期間の売上高は、期初からの堅調な受注により、製品・商品いずれも前年同期間比で10%以上増加し、全体では5億13百万円の増収となりました。
- ② 防毒マスクは、前年同期間比で1億64百万円、率にして14.5%の増加となりました。
- ③ 防じんマスクは、原子力発電所向け製品や使い捨て防じんマスクの拡販等もあり、前年同期間比で約2億円の増加、自給式呼吸器も約80百万円の増加となりました。また、その他の呼吸用保護具等の合計も、70百万円の増加となっています。

## 第2四半期末の主要資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2013年度	2014年度	2015年度
現預金	1,163.0	983.5	1,160.6
受取手形	1,481.6	1,582.1	1,769.7
売掛金	1,088.4	1,129.5	1,172.3
棚卸資産	2,566.9	2,582.4	2,834.0
有形固定資産	3,339.3	3,244.5	3,145.0
其他資産	1,124.1	1,147.9	949.1
合計	10,763.4	10,669.9	11,030.7

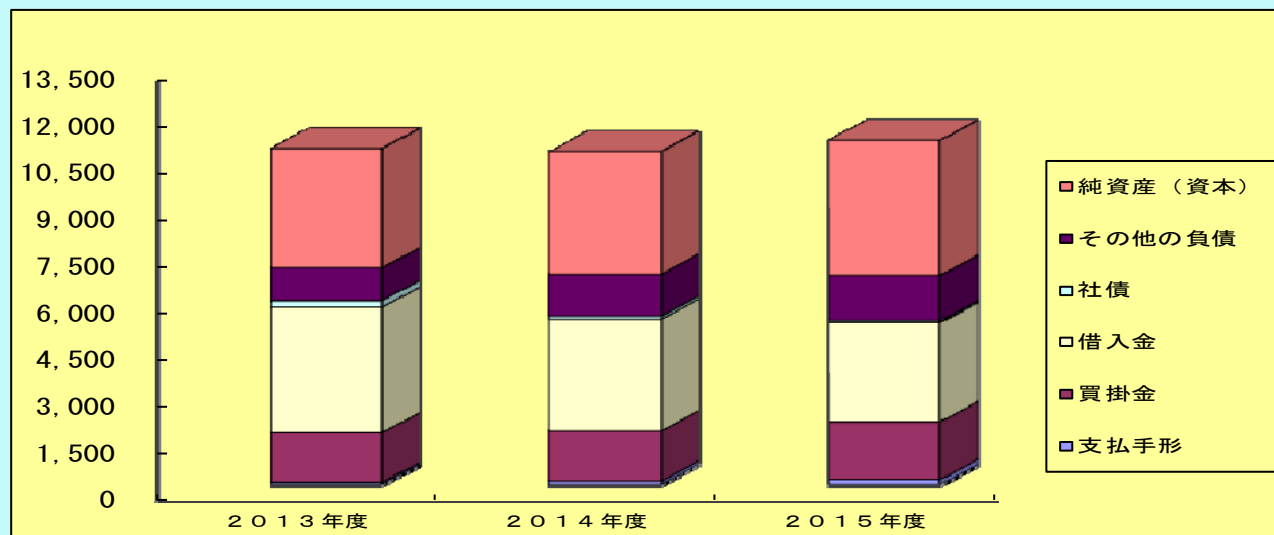
注：本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は簿外のため含まれていません。

## 当第2四半期末の特徴

- ① 現預金の残高は、前第2四半期末比では3億98百万円増加していますが、これは、長期性預金からの預け替えによる増加分を除くと、通常の変動範囲内にあるものです。
- ② 売上高の増加に伴い、売上債権（受取手形＋売掛金）は、前第2四半期末比で2億30百万円の増加となりました。
- ③ 棚卸資産は、年度後半以降の受注に備えるため、前第2四半期末比では2億52百万円増加しております。
- ④ 大型の設備投資は実施しておらず、有形固定資産は、前第2四半期末比では99百万円減少しております。
- ⑤ その他資産については、長期性預金の払い出しを主因として、前第2四半期末比で約2億円の減少となっております。

## 第2四半期末の主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

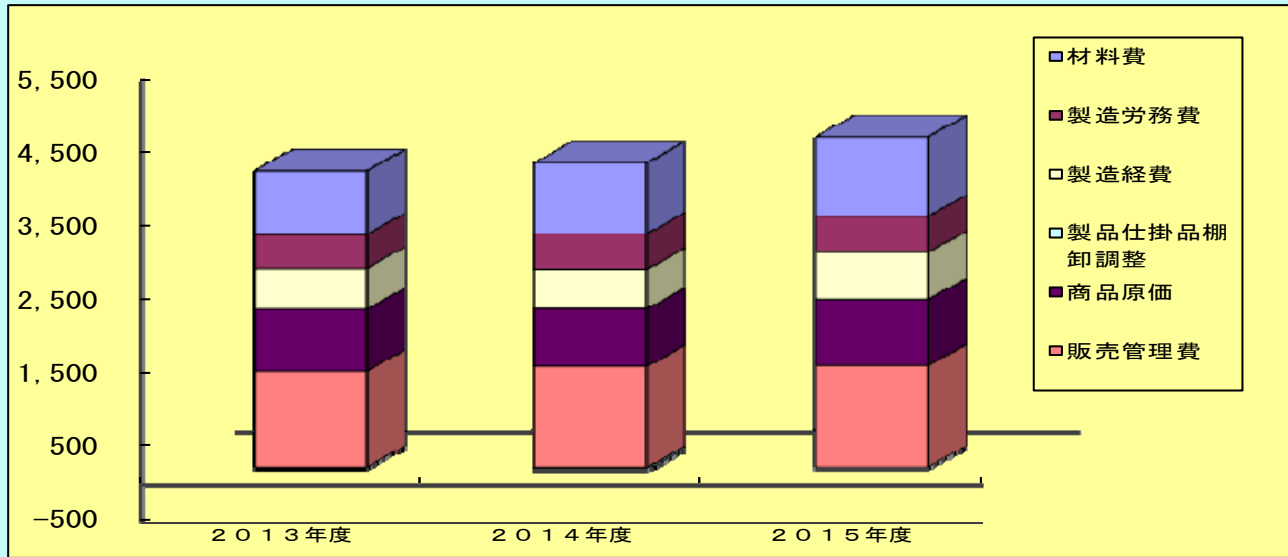
	2013年度	2014年度	2015年度
支払手形	70.1	109.1	165.9
買掛金	1,590.8	1,608.6	1,852.1
借入金	4,021.3	3,573.7	3,168.0
社債	212.6	100.0	60.0
その他の負債	1,049.2	1,345.8	1,460.5
純資産（資本）	3,819.3	3,932.8	4,324.2
合計	10,763.4	10,669.9	11,030.7

## 当第2四半期末の特徴

- ① 売上高の増加に伴い、支払債務（支払手形+買掛金）は、前第2四半期末比で3億円の増加となっております。
- ② 借入金及び社債の合計残高は、長期借入金の折り返しのタイミングにより、前第2四半期末比では4億46百万円減少しております。
- ③ 自己資本比率は、四半期純利益による利益剰余金の増加や株価上昇にともなう保有有価証券の評価差額金の増加等による純資産の増加により、第2四半期末も39.2%と高水準を維持し、前第2四半期末比で2ポイント以上改善しています。

## 第2四半期累計期間の売上原価・販売管理費状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2013年度	2014年度	2015年度
材料費	864.5	964.7	1,080.3
製造労務費	458.0	483.0	490.2
製造経費	561.8	541.1	642.8
製品仕掛品棚卸調整	△ 1.5	△ 36.9	△ 274.5
商品原価	839.0	783.4	898.5
販売管理費	1,307.2	1,371.8	1,382.1
合計	4,029.0	4,107.1	4,219.5

## 当第2四半期累計期間の特徴

① 材料費は、年度後半以降に向けた製品供給体制の強化等もあり、前年同期間比で1億16百万円増加しましたが、製品売上高に占める比率は、ほぼ前年同期間並みの水準を維持しています。

製造労務費は、前年同期間比で7百万円増加しましたが、製品売上増もあり、売上高に占める比率は、前年同期間比で1.6ポイント改善しました。

製造経費は、前年同期間比で1億2百万円の増加となり、製品売上高に占める比率は前年同期間比で1ポイント悪化しました。

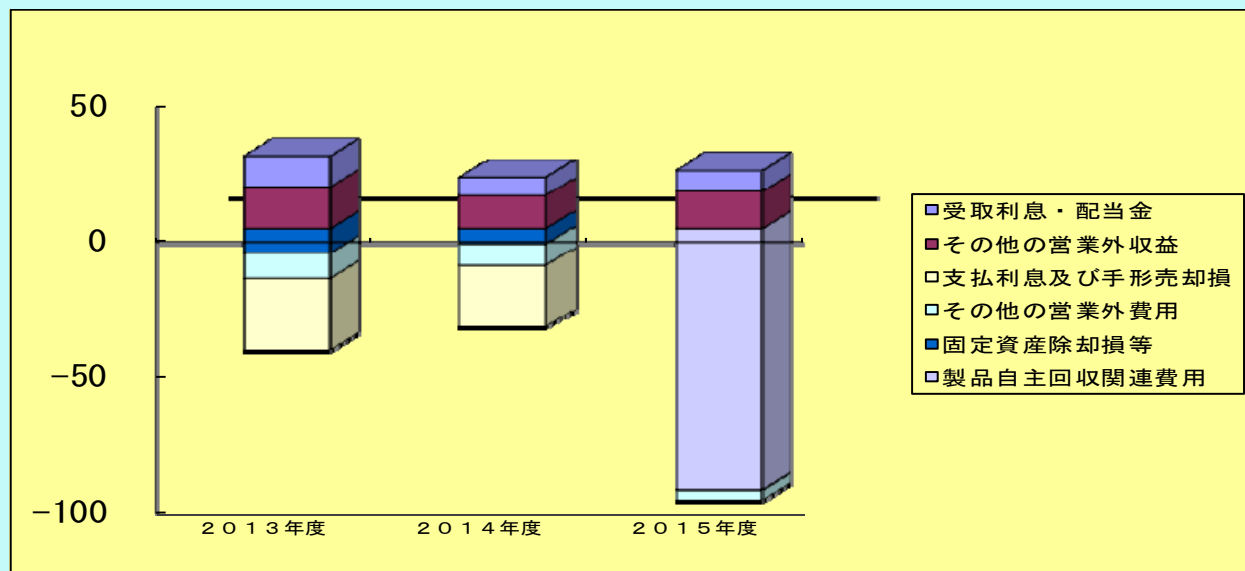
② 商品原価については、商品売上高に対する原価率は76.4%と、ほぼ前年同期間並みの水準を維持しています。

③ 販売費及び一般管理費については、期初からの効率的な営業活動に注力してきたことにより、前年同期間比では10百万円の微増に止まりました。



## 第2四半期累計期間の営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

		2013年度	2014年度	2015年度
営業外損益	受取利息・配当金	11.1	6.8	7.7
	その他の営業外収益	15.4	12.1	13.7
	支払利息及び手形売却損	△ 26.5	△ 22.7	△ 16.8
	その他の営業外費用	△ 9.3	△ 7.9	△ 16.6
	営業外損益合計	△ 9.3	△ 11.7	△ 11.9
特別損益	固定資産除却損等	△ 9.0	△ 5.7	△ 0.2
	製品自主回収関連費用	-	-	△ 96.1
	特別損益合計	△ 9.0	△ 5.7	△ 96.3

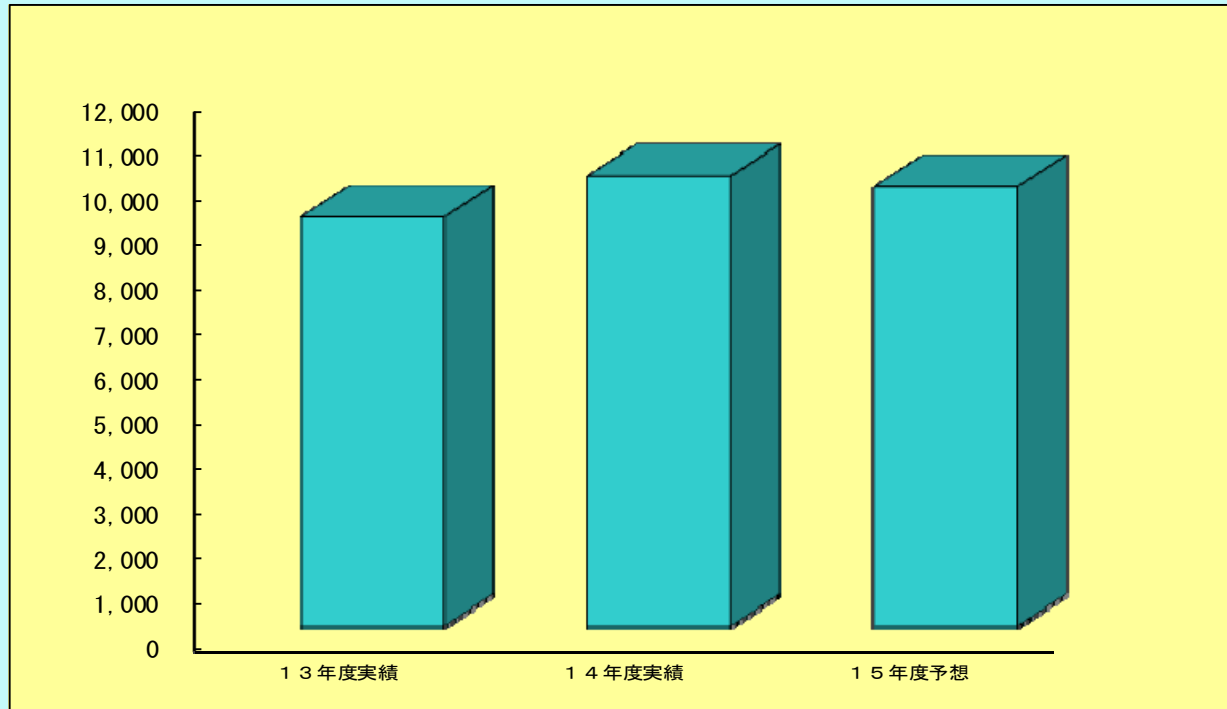
### 当第2四半期累計期間の特徴

- ① 営業外収益は、受取配当金や仕入現金割引等が増加したこともあり、全体では前年同期間比で3百万円増加しました。
- ② 営業外費用は、借入金・社債残高の圧縮により、支払利息・手形売却損が6百万円減少したものの、為替差損・売上割引が増加したため、全体では前年同期間比で3百万円増加しました。
- ③ 特別利益に計上すべきものは、前年同期間と同様にありません。
- ④ 製品自主回収関連費用として96百万円を特別損失として計上しております。

# 2015年度 通期業績予想

## 2015年度 通期の売上高予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点未満四捨五入

	13年度実績	14年度実績	15年度予想
通 期	9,120	10,034	9,800

## 状 況 と 見 通 し

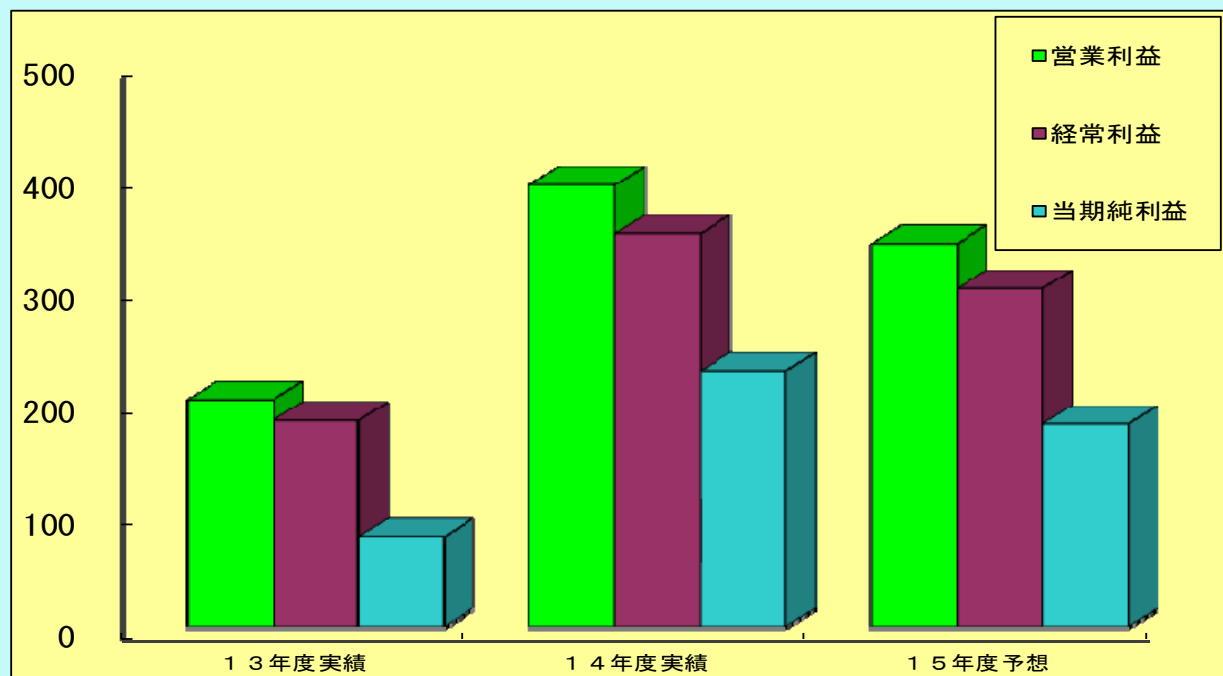
当第2四半期累計期間の売上高は、主要顧客である製造業の業績改善による受注増に加え、原子力発電所向け製品の受注も堅調だったこと等により、本年5月に公表した業績予想に比し、5億80百万円の大幅増加となりました。

通期の売上高予想値につきましては、上記の実績を踏まえ、当事業年度後半の事業環境や受注動向等を見通しますと、現時点では、本年5月に公表した98億円から大きく乖離はしないものと見込んでおります。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合には、適時開示規則に則り、速やかに業績予想の修正発表を行ってまいります。

## 2015年度 通期の利益予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	13年度実績	14年度実績	15年度予想
営業利益	210.0	391.9	340.0
経常利益	183.8	348.6	300.0
当期純利益	80.4	227.0	180.0

## 状況と見通し

当第2四半期累計期間の利益面については、本年11月に修正開示したとおり、営業利益以下の各利益実績いずれも、本年5月に公表した当初の利益予想値を大きく上回るとともに、通期の利益予想値に対する進捗度も順調に推移しております。

しかし、売上高と同様に、第3四半期以降の損益も、景気の先行き及び原子力発電所向け製品の受注動向等に大きく影響されることは避けられないものと思われまます。以上のことから、現時点では、本年5月に公表しました通期の利益予想値につきましても修正は行いません。今後、修正が必要になった場合には、速やかに発表を行ってまいります。